

理事長ブログ

名古屋保健衛生大学に入学した。新入学生は 120 人。小生の学籍番号は【78079】であった。入学時の学力試験で、小生の順位は 118 番であった。当時、試験結果は教学局の壁に張り出され、小生は同期から「バカ」だと思われていた。

大学 1・2 年生の頃は教養科目ばかりで、全く面白くなかった。特にフランス語、1 年間フランス語を学んで覚えたのは「ケスクセ？」だけである。英語で言うと「What is this ?」という意味だったと思う。

ドイツ語はもっと悲惨で、最初の試験は 0 点だった。ドイツ語の先生はとてもいい方で、補講である言葉を教えてくれた。

「遅刻したときには、必ずこの言葉を言いなさい!」、それ以降、ドイツ語の授業には必ず遅れていき、その言葉を必ず唱えた。その言葉は「Fair zaienzi das ich shupato come」。日本語に訳すと「遅れてすみません」という意味だ。

1 年間に 50 回以上唱えたので、今も頭の中に残っている。ドイツ語で覚えたのはこの言葉だけである・・・。



学生時代

大学 3 年生までの成績はいつも同じような順位だった。大学 4 年生から変化が起きた。何故か？臨床の授業が始まったからである。基礎の授業も生理、生化など興味深い学科があったものの、臨床の授業とは全く興味の程度が違った。臨床の授業が始まってからは本当に授業が面白くて仕方なかった。

小生は医者になるために医学部に進学したのではなく、整形外科医になるために医学部に入った。医学部 2 年生の骨学実習、覚えることばかりでとっても大変な実習であったが、小生は楽しくて仕方なかった。骨の名前だけでなく、その骨の突起の名前まで覚えるのである。今振り返れば「アホ」か!! と思えるのだが、当時はその実習は楽しくて仕方なかった。休みの日まで実習室に赴き、ひたすらに人の体を学んだ。

勉強以外ではラグビー部に入り、熾烈な訓練を毎日のようにこなしていた。高校時代、高校ラグビーや大学ラグビーを見ていて、特に早明戦、その肉弾戦にあこがれていた。だから大学に入ったら、ラグビーをやりたいと心から思っていた。

1 年生からレギュラーに抜擢され、左のフランカー、6 番を任されていた。父や母の影響もあって運動神経は子供の頃から良く、子供のころから運動会では活躍していたし、水泳大会でも毎回優勝していた。ラグビーは大学に入って初めて実践したが、1 年目からトライを重ね、6 年生の秋までに 74 トライを挙げた。他に類を見ない成績だと自分では思っている。

これは自分だけの力ではなく、2年後輩の成田君がラグビー部に入ってきてくれたおかげでもある。成田君は高校時代スクラムハーフで、日本体育大学の選抜試験に選出されたが、残念ながら選抜に漏れ、名古屋保健衛生大学の衛生学部に入學しラグビー部に入部してきた。彼のラグビー能力は桁外れで、医歯薬系のラグビー部の中では随を抜いていた。

その卓越したステップ能力は、敵のタックルをかいくぐり敵陣にどんどん攻め込むが、残念ながら彼は脚が速くなく、最後に敵の15番ラインバックに捕まりそうになる。誰もついていけない彼のステップに小生だけがついていけたので、最後にパスをもらい、トライに繋げることができた。小生の74トライのうち、80%は成田君のおかげだと思っている。成田君、本当にありがとう。

(2024年2月8日)